平成 30 年 3 月現在

平成30年度入学生対象

別記様式1

主専攻プログラム詳述書

開設学部（学科）名〔教育学部第三類（言語文化教育系）日本語教育系コース〕

プログラムの名称（和文）	日本語教育プログラム
（英文）	Teaching Japanese as a Second Language

１．取得できる学位

本プログラムで取得できる学位は，学士（教育学）である。その取得には，本プログラムにおける授業科目について１２８単位（教養教育４６単位，専門基礎科目１８単位，専門科目３０単位，専門選択科目２８単位，卒業研究６単位，計１２８単位）以上の修得が必要である。

２．概要

日本語教育プログラムでは，日本語教員および学際的視野から国際社会に貢献出来る人材を養成する。

本プログラムでは，「日本語教員養成の新たな教育内容」（文化庁）に必要かつ十分に対応したカリキュラム，すなわち，「日本語の教育」,「日本語学習の支援」,「言語の構造」,「言語と行動」,「表現と文化」,「文化の理解」の各領域（以下，日本語教育６領域と称する）に関する基礎的な知識，能力，技能を体系的に履修し，理論・実践の両面を兼ね備えた自己研修型日本語教師を養成する。また，国際交流にかかわる企業・諸団体などで活躍する人材も養成する。

さらに本プログラムでは，大学院に進学し高度な教育・研究者を目指す人材を養成する。

３．ディプロマポリシー（学位授与の方針・プログラムの到達目標）

日本語教育プログラムでは，日本語を外国語として教える日本語教員をはじめとし，日本語・日本文化について国際社会で説明できる知識と能力，先入観にとらわれない国際感覚と独創性を備え，グローバル化する社会で幅広く活躍できる人材を養成します。そのため，本プログラムでは，以下の能力を身につけ，教育課程に定められた基準の単位数を修得した学生に「学士(教育学)」の学位を授与します。

(1) 日本語教育に関連する基本的な知識を踏まえ，優れた教育実践を行うことができる。

(2) 日本語教育の各領域および関連諸領域を理解し，研究を専門的かつ学際的に発展させることができる。

(3) 国際的な視野を持つとともに，それを学際的な思考につなげることができる。

４．カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

日本語教育プログラムでは，プログラムが掲げる到達目標を実現させるために，次の方針のもとに教育課程を編成し，実施します。

１年次には，教養教育科目や外国語科目を履修し，専門教育の基盤づくりを行うとともに国際社会に貢献するための広い視野と能力を培います。また，専門基礎科目である「日本語教育学基礎論」等を履修し，日本語教育に関する基礎的な知識を修得します。

２年次には，教養教育科目を引き続き履修して専門教育の基盤づくりを行うとともに，「日本語教育課程論」，「日本語教育と文法」，「第二言語学習の心理」，「比較日本文化学」等の専門基礎科目を履修します。専門基礎科目は＜日本語の教育＞，＜日本語学習の支援＞，＜言語の構造＞，＜言語と行動＞，＜表現と文化＞，＜文化の理解＞の６分野からなっており，そのうちの４分野以上にわたって履修することで，日本語教育に関する基礎的な知識を広く修得するとともに分野間の理解を深めます。

３年次には，「日本語技能指導論」，「言語の比較と対照研究」，「日本の近現代文学」等の専門科目を

主として履修し，専門的な知識を修得します。また，「日本語教育海外実習研究」では，海外の協力校で実習を行い，教育実践力を高めるとともに，事前・事後指導を通して実践に対する省察力を培います。

４年次においては，国内の日本語教育機関において実習を行うこと(「日本語教育実習研究」)で教育実践力と省察力を高めます。また，卒業論文では，本プログラムを通して修得した専門的な知識，技能，能力を活用して独自のテーマに取り組むことで，自ら問題を発見して解決する力を培います。

学修の成果は，各教科の成績評価と共に本教育プログラムで設定する到達目標への到達度の２つで評価します。

５．開始時期・受入条件

本プログラムの開始時期は，１年次である。日本語教育系コースに入学することが受入条件である。プログラム選択のための既修得要件は，特にない。

６．取得可能な資格

「日本語教育能力検定試験合格の認定」を得ることが可能である。教育職員免許法に基づいて教職関係科目を併せて修得することにより，高等学校教諭一種免許（国語）が取得可能である。また，特定プログラムを追加して修得することで，学芸員，社会教育主事，学校図書館司書教諭などの資格も取得可能である。

７．授業科目及び授業内容

※授業科目は，別紙１の履修表を参照すること。

※授業内容は，各年度に公開されるシラバスを参照すること。

８．学習の成果

※別紙２の評価項目と評価基準との関係を参照すること。

※別紙３の評価項目と授業科目との関係を参照すること。

※別紙４のカリキュラムマップを参照すること。

９．卒業論文（卒業研究）（位置づけ，配属方法，時期等）

○目的

卒業論文は，本プログラムを通して身につけた，「知識・理解」，「能力・技能」，「実践的な力」，「総合的な力」を活用し，日本語教育６領域に関する独自の課題を設けて，研究成果をまとめることを目的にする。

○概要

日本語教育６領域から１研究領域を選択し，卒業論文指導教員の指導の下，各自が選択する研究テーマに即して研究を進め，４年次１０月の所定期日に研究テーマを，１月末には卒業論文を提出する。

○配属時期と配属方法

３年次後期中に，卒業論文指導教員を決め，主要な研究領域を決定する。４年次に日本語教育学特定研究Ⅰ・Ⅱを履修し，卒業論文作成を行う。

１０．責任体制

本プログラムは，主として教育学部の日本語教育学講座のスタッフにより遂行される。遂行上の責任は，プログラム責任者（日本語教育学講座の主任）にある。計画・実施・評価・改善は，本プログラム教員会が行う。なお，プログラム外からの評価・改善は，教育学部内の担当部会により進められ，プログラムの到達度が評価され，勧告が示される。

教 養 教 育 科 目 履 修 基 準 表

第三類　日本語教育系コース（日本語教育プログラム）

区分	科目区分			要修得単位数	授業科目等	単位数	履修区分	履修セメスター(注1) 1年次 1セメ	1年次 2セメ	2年次 3セメ	2年次 4セメ	3年次 5セメ	3年次 6セメ	4年次 7セメ	4年次 8セメ
教養教育科目	平和科目			2		2	選択必修	○							
	大学教育基礎科目	大学教育入門		2	大学教育入門	2	必修	○							
	大学教育基礎科目	教養ゼミ		2	教養ゼミ	2	必修	○							
	共通科目	領域科目	人文社会科学系科目群	4	(注4)	1又は2	選択必修	○	○	○	○				
	共通科目	領域科目	自然科学系科目群	4	(注4)	1又は2	選択必修	○	○	○	○				
	共通科目	外国語科目	英語（注2） コミュニケーション基礎	2	コミュニケーション基礎Ⅰ	1	必修	○							
	共通科目	外国語科目	英語（注2） コミュニケーション基礎	2	コミュニケーション基礎Ⅱ	1	必修		○						
	共通科目	外国語科目	英語（注2） コミュニケーションⅠ(注3)	4	コミュニケーションⅠA	1	選択必修	○							
	共通科目	外国語科目	英語（注2） コミュニケーションⅠ(注3)	4	コミュニケーションⅠB	1	選択必修	○							
	共通科目	外国語科目	英語（注2） コミュニケーションⅡ(注3)	4	コミュニケーションⅡA	1	選択必修		○						
	共通科目	外国語科目	英語（注2） コミュニケーションⅡ(注3)	4	コミュニケーションⅡB	1	選択必修		○						
	共通科目	外国語科目	英語（注2）	4	上記4科目から2科目以上										
	共通科目	外国語科目	英語（注2） コミュニケーションⅢ	2	コミュニケーションⅢA	1	選択必修			○	○				
	共通科目	外国語科目	英語（注2） コミュニケーションⅢ	2	コミュニケーションⅢB	1	選択必修			○	○				
	共通科目	外国語科目	英語（注2） コミュニケーションⅢ	2	コミュニケーションⅢC	1	選択必修			○	○				
	共通科目	外国語科目	英語（注2） コミュニケーションⅢ	2	上記3科目から2科目										
	共通科目	外国語科目	英語（注2） －	(0)	コミュニケーション上級英語	1	自由選択	○	○						
	共通科目	外国語科目	初修外国語（注5）	4	ベーシック外国語Ⅰから2科目	1	選択必修	○							
	共通科目	外国語科目	初修外国語（注5）	4	ベーシック外国語Ⅱから2科目	1	選択必修		○						
	共通科目	外国語科目	初修外国語（注5）	4	インテンシブ外国語ⅠA	1	必修(注6)	○							
	共通科目	外国語科目	初修外国語（注5）	4	インテンシブ外国語ⅠB	1	必修(注6)	○							
	共通科目	外国語科目	初修外国語（注5）	4	インテンシブ外国語ⅡA	1	必修(注6)		○						
	共通科目	外国語科目	初修外国語（注5）	4	インテンシブ外国語ⅡB	1	必修(注6)		○						
	共通科目	外国語科目	初修外国語（注5）	(0)	海外語学演習	1	自由選択								
	共通科目	情報科目		2	(注7)	2	選択必修	○							
	共通科目	健康スポーツ科目		2		1又は2	選択必修	○	○						
	共通科目	社会連携科目		(0)		1又は2	自由選択	○	○						
	基盤科目			(0)		1～3	自由選択	○	○	○	○				
	自由選択科目			12	(注8)	1～3	選択必修	○	○	○	○				
	計			46											

注1：○印は標準履修セメスターを表している。なお，当該セメスターで単位を修得できなかった場合はこれ以降に履修することも可能である。授業科目により実際に開講するセメスターが異なる場合があるので，毎年度発行する教養教育科目授業時間割等で確認すること。

注2：短期語学留学等による「英語圏フィールドリサーチ」又は自学自習による「オンライン英語演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の履修により修得した単位を，卒業に必要な英語の単位に代えることが可能である。また，外国語技能検定試験，語学研修による単位認定制度もある。詳細については，学生便覧の教養教育の英語に関する項及び「外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて」を参照すること。

注3：時間割編成の都合上，1セメスターは「コミュニケーションⅠA」及び「コミュニケーションⅠB」が，2セメスターは「コミュニケーションⅡA」及び「コミュニケーションⅡB」が指定されている。

注4：・専門分野以外の分野から履修することが望ましい。
・教育職員免許状を取得するためには，「日本国憲法」の2単位を修得する必要がある。

注5：ドイツ語，フランス語，スペイン語，中国語，韓国語のうちから1言語選択すること。

注6：ベーシック外国語で選択した言語と同一言語の「インテンシブ外国語」を1年次に選択・履修し，4単位を修得すること。4単位に満たなかった場合は，2年次以降に「インテンシブ外国語」を再履修し，単位を修得すること。なお，「インテンシブ外国語」はベーシック外国語と連動しており，「インテンシブ外国語」のみを再履修することはできない。再履修の際は，登録方法に注意すること。

注7：1セメスター開設の「情報活用基礎」を履修すること。なお，「情報活用基礎」の単位を修得できなかった場合は，2セメスター開設の「情報活用演習」を履修することができる。

注8：外国語科目，領域科目，社会連携科目，基盤科目（6単位限度）を対象とする。

学 部 履 修 基 準

第　三　類（言語文化教育系）

○　日 本 語 教 育 系 コ ー ス（日本語教育プログラム）

<table>
<tr><th colspan="4">科　目　区　分　等</th><th>要　修　得　単　位　数</th><th></th></tr>
<tr><td rowspan="12">教養教育</td><td colspan="3">平　和　科　目</td><td>2</td><td rowspan="12">４６</td></tr>
<tr><td rowspan="2">大学教育基礎科目</td><td colspan="2">大学教育入門</td><td>2</td></tr>
<tr><td colspan="2">教養ゼミ</td><td>2</td></tr>
<tr><td rowspan="7">共通科目</td><td rowspan="2">領域科目</td><td>人文社会科学系科目群</td><td>4</td></tr>
<tr><td>自然科学系科目群</td><td>4</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外国語科目</td><td>英　語</td><td>8</td></tr>
<tr><td>初修外国語</td><td>8</td></tr>
<tr><td colspan="2">情報科目</td><td>2</td></tr>
<tr><td colspan="2">健康スポーツ科目</td><td>2</td></tr>
<tr><td colspan="2">社会連携科目</td><td>（0）</td></tr>
<tr><td colspan="3">基　盤　科　目</td><td>（0）</td></tr>
<tr><td colspan="3">自　由　選　択　科　目</td><td>１２</td></tr>
<tr><td rowspan="4">専門教育</td><td colspan="3">専　門　基　礎　科　目</td><td>１８</td><td rowspan="4">８２</td></tr>
<tr><td colspan="3">専　門　科　目</td><td>３０</td></tr>
<tr><td colspan="3">専　門　選　択　科　目</td><td>２８</td></tr>
<tr><td colspan="3">卒　業　研　究</td><td>6</td></tr>
<tr><td colspan="5">合　　計</td><td>１２８</td></tr>
</table>

専 門 教 育 科 目 履 修 基 準

第三類　日本語教育系コース（日本語教育プログラム）

<table>
<tr><th colspan="2">履　修　内　容</th><th colspan="2">要 修 得 単 位 数</th><th>開　　設</th></tr>
<tr><td rowspan="7">専門基礎科目</td><td>必修科目</td><td>4</td><td rowspan="8">４８</td><td rowspan="8">日本語教育系コース</td></tr>
<tr><td>日本語の教育</td><td rowspan="6">１４</td></tr>
<tr><td>日本語学習の支援</td></tr>
<tr><td>言語の構造</td></tr>
<tr><td>言語と行動</td></tr>
<tr><td>表現と文化</td></tr>
<tr><td>文化の理解</td></tr>
<tr><td colspan="2">専　門　科　目</td><td>３０</td></tr>
<tr><td colspan="2">専 門 選 択 科 目</td><td colspan="2">２８</td><td>教 育 学 部 ほ か</td></tr>
<tr><td colspan="2">卒　業　研　究</td><td colspan="2">6</td><td>日本語教育系コース</td></tr>
</table>

＜履修上の注意＞

１．「必修科目」以外の専門基礎科目の１４単位は,「日本語の教育」,「日本語学習の支援」,「言語の構造」,「言語と行動」,「表現と文化」,「文化の理解」の６分野の中から４分野以上にわたって履修すること。

２．「必修科目」以外の専門基礎科目の修得単位数が１４単位を超えた場合は，超過した単位数を専門科目の要修得単位数３０単位の一部として認める。

３．『専門選択科目』欄の副専攻プログラム及び特定プログラムの修得単位数は，２８単位まで認める。

第三類　日本語教育系コース（日本語教育プログラム）

開設単位数欄の〇印数字は必修
履修ｾﾒｽﾀｰ欄の〇印は標準履修ｾﾒｽﾀｰ

区分		授業科目	開単位設数	履修セメスター								免許法該当科目	備考
				1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ		
専門基礎科目	必修科目	日本語教育学基礎論	②	〇									
		日本語教育学特定研究Ⅰ	①							〇			
		日本語教育学特定研究Ⅱ	①								〇		
	日本語の教育	日本語教育課程論	2			〇							
		日本語教授法研究	2			〇							
		日本語教育と文法	2				〇					国語学	
	日本語学習の支援	日本語の音声と発音	2				〇					〃	
		学校日本語教育	2				〇						
		第二言語学習の心理	2				〇						
	言語の構造	日本語の構造	2		〇							国語学	
		日本語の文法	2			〇						〃	
		言語学の理論と方法	2		〇								
	言語と行動	社会言語学	2				〇						
		日本語の習得と指導	2				〇						
		言語心理学	2					〇					
	表現と文化	日本語の表現と論理	2			〇						国語学	
		日本文学と文化	2				〇					国文学	
		日本語の語彙と意味	2			〇						国語学	
	文化の理解	比較日本文化学	2			〇							
		日本文化研究	2				〇						
		異文化接触と文化学習	2			〇							
専門科目		日本語文字・表記研究	2				〇					国語学	
		日本語技能指導論	2					〇					
		日本語文法演習	2					〇				国語学	
		言語の比較と対照研究	2					〇					
		対照言語学演習	2						〇				
		語用論	2					〇					

区分	授業科目	開設単位数	履修セメスター								免許法該当科目	備考
			1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ		
専門科目	第二言語習得論演習	2						○				
	日本語位相論	2					○				国語学	
	表現法演習	2						○			〃	
	日本語語彙論・意味論演習	2				○					〃	
	近代日本文学史	2						○			国文学	
	社会文化学	2					○					
	多文化間教育論	2					○					
	日本の近現代文学	2					○				国文学	
	比較文化学演習	2						○				
	異文化間教育学演習	2						○				
	言語学概説Ａ	2			○							文学部
	一般言語学基礎演習Ａ	2			○							文学部
	統語論	2			○							総合科学部
	日本語教育海外実習研究	2						○				
	日本語教育実習研究	2							○			
専門選択科目	本コース，本学部他コース，特別科目及び他学部等が開設する専門教育科目（副専攻プログラム及び特定プログラムを含む。）											
卒業研究	卒業論文	⑥										

別紙2

日本語教育プログラムにおける学習の成果

評価項目と評価基準との関係

学習の成果			評価基準		
評価項目			極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
知識・理解	(1)	日本語教育の理論と方法に関する基礎的な知識を得る。	日本語教育の理論と方法に関する基礎的な知識を身につけ，それに基づき，問題点や課題を指摘し，解決への新たな展望を得ることができる。	日本語教育の理論と方法に関する基礎的な知識を身につけ，それに基づき，問題点や課題を指摘することができる。	日本語教育の理論と方法に関する基礎的な知識を身につけることができる。
	(2)	日本語・日本文化の教育に関する基本的な理解を得る。	日本語・日本文化の教育に関する基本的な理解を得，それに基づき，問題点や課題を指摘し，解決への新たな展望を得ることができる。	日本語・日本文化の教育に関する基本的な理解を得，それに基づき，問題点や課題を指摘することができる。	日本語・日本文化の教育に関する基本的な理解を得ることができる。
	(3)	日本語教育の現状と課題に関する基本的な理解を得る。	日本語教育の現状と課題に関する基本的な理解を得，それに基づき，問題点や課題を指摘し，解決への新たな展望を得ることができる。	日本語教育の現状と課題に関する基本的な理解を得，それに基づき，問題点や課題を指摘することができる。	日本語教育の現状と課題に関する基本的な理解を得ることができる。
	(4)	日本語教育6領域に関する基礎的な知識を得る。	日本語教育6領域に関する基礎的な知識を身につけ，それに基づき，問題点や課題を指摘し，解決への新たな展望を得ることができる。	日本語教育6領域に関する基礎的な知識を身につけ，それに基づき，問題点や課題を指摘することができる。	日本語教育6領域に関する基礎的な知識を身につけることができる。
能力・技能	(1)	日本語教育の理論と方法について，調査・実験・資料分析を通じて，理解を深める。	日本語教育の理論と方法について，調査・実験・資料分析を通じて，理解を深め，それに基づき，問題点や課題を指摘し，解決への新たな展望を得ることができる。	日本語教育の理論と方法について，調査・実験・資料分析を通じて，理解を深め，それに基づき，問題点や課題を指摘することができる。	日本語教育の理論と方法について，調査・実験・資料分析を通じて，理解を深めることができる。
	(2)	日本語・日本文化の教育について文献・資料・情報に基づき，個別テーマを設定して研究する。	日本語・日本文化の教育について文献・資料・情報に基づき，個別テーマを設定して研究し，顕著な成果を得ることができる。	日本語・日本文化の教育について文献・資料・情報に基づき，個別テーマを設定して研究し，成果を得ることができる。	日本語・日本文化の教育について文献・資料・情報に基づき，個別テーマを設定して研究することができる。
	(3)	日本語教育の現状と課題について文献・資料・情報を収集・整理し，問題を明確化する。	日本語教育の現状と課題について文献・資料・情報を適切に収集・整理し，問題を明確化し，解決への新たな解決策を提示することができる。	日本語教育の現状と課題について文献・資料・情報を適切に収集・整理し，複数の問題を明確化することができる。	日本語教育の現状と課題について文献・資料・情報を収集・整理し，問題を明確化することができる。
	(4)	日本語教育6領域に関して個別的・専門的に研究する。	日本語教育6領域に関して個別的・専門的に研究し，顕著な成果を得ることができる。	日本語教育6領域に関して個別的・専門的に研究し，成果を得ることができる。	日本語教育6領域に関して個別的・専門的に研究することができる。
実践的な力	(1)	日本語教育の実践に向けて，その方法を構想・立案する。	日本語教育の実践に向けて，その方法を具体的かつ適切に構想・立案することができる。	日本語教育の実践に向けて，その方法を具体的に構想・立案することができる。	日本語教育の実践に向けて，その方法を構想・立案することができる。
	(2)	日本語教育の実践に向けて，その内容を分析・開発する。	日本語教育の実践に向けて，その内容を批判的に分析し，より優れたものを開発することができる。	日本語教育の実践に向けて，その内容を総合的に分析・開発することができる。	日本語教育の実践に向けて，その内容を分析・開発することができる。
	(3)	日本語教育の実践に向けて，指導案を構想する。	日本語教育の実践に向けて，効果的で実践可能な指導案を構想することができる。	日本語教育の実践に向けて，実践可能な指導案を構想することができる。	日本語教育の実践に向けて，指導案を構想することができる。
	(4)	日本語教育の実践に向けて，新たな研究を計画し，推進する。	日本語教育の実践に向けて，新たな研究を具体的に計画し，効率的に推進することができる。	日本語教育の実践に向けて，新たな研究を具体的に計画し，推進することができる。	日本語教育の実践に向けて，新たな研究を計画し，推進することができる。
総合的な力	(1)	個人，あるいはグループで研究・活動を立案し，効果的に実現する。	個人，あるいはグループで研究・活動を独創的に立案し，効果的に実現することができる。	個人，あるいはグループで研究・活動を適切に立案し，効果的に実現することができる。	個人，あるいはグループで研究・活動を立案し，効果的に実現することができる。
	(2)	個々の研究や教育実践の成果をレポートや論文にまとめ，プレゼンテーションをする。	個々の研究や教育実践の成果を優れたレポートや論文にまとめ，説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。	個々の研究や教育実践の成果を優れたレポートや論文にまとめ，プレゼンテーションをすることができる。	個々の研究や教育実践の成果をレポートや論文にまとめ，プレゼンテーションをすることができる。
	(3)	コンピュータなどITを用いて，基礎的な情報処理や教材開発をする。	コンピュータなどITを効果的に用いて，基礎的・応用的な情報処理や教材開発をすることができる。	コンピュータなどITを効果的に用いて，基礎的な情報処理や教材開発をすることができる。	コンピュータなどITを用いて，基礎的な情報処理や教材開発をすることができる。
	(4)	日本語教育6領域の各領域を相互に関連づけ，日本語教育の諸問題を改善・創造する。	日本語教育6領域の各領域を相互に有機的に関連づけ，体系的な視点から，日本語教育の諸問題を改善・創造することができる。	日本語教育6領域の各領域を相互に有機的に関連づけ，日本語教育の諸問題を改善・創造することができる。	日本語教育6領域の各領域を相互に関連づけ，日本語教育の諸問題を改善・創造することができる。

主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

本プログラムにおける教養教育は，専門教育の基盤づくりを担い，教育学，言語学，文化学，心理学を含む人文科学・社会科学に関する基礎的知識を修得します。加えて，外国語運用能力を向上させ，現代の国際社会や教育の要請に応える総合的な能力や資質を養います。

別紙3

評価項目と授業科目との関係

科目区分	授業科目名	単位数	必修・選択区分	開設期	評価項目																																科目中の評価項目の総加重値
					知識・理解								能力・技能								実践的な力								総合的な力								
					(1)		(2)		(3)		(4)		(1)		(2)		(3)		(4)		(1)		(2)		(3)		(4)		(1)		(2)		(3)		(4)		
					科目中の評価項目の加重値	評価項目中の加重値	科目中の評価項目の加重値	評価項目中の加重値	科目中の評価項目の加重値	評価項目中の加重値	科目中の評価項目の加重値	評価項目中の加重値	科目中の評価項目の加重値	評価項目中の加重値	科目中の評価項目の加重値	評価項目中の加重値	科目中の評価項目の加重値	評価項目中の加重値	科目中の評価項目の加重値	評価項目中の加重値	科目中の評価項目の加重値	評価項目中の加重値	科目中の評価項目の加重値	評価項目中の加重値	科目中の評価項目の加重値	評価項目中の加重値	科目中の評価項目の加重値	評価項目中の加重値	科目中の評価項目の加重値	評価項目中の加重値	科目中の評価項目の加重値	評価項目中の加重値	科目中の評価項目の加重値	評価項目中の加重値	
教養教育科目	平和科目	2	選択必修	1			100	1																													100
教育教養科目	大学教育入門	2	必修	1																									30	1	30	1			40	1	100
教養教育科目	教養ゼミ	2	必修	1									20	1			20	1											20	1	20	1			20	1	100
教養教育科目	外国語科目	2 6	必修 選択必修	1，2 3，4	50	1	50	1																													100
教養教育科目	領域科目	4 (16)	必修 選択必修	1，2 3，4			34	1			33	1							33	1																	100
教養教育科目	情報科目	2	選択必修	1																	50	1											50	1			100
専門教育科目	日本語教育学基礎論	2	必修	1							100	1																									100
専門教育科目	日本語教育学特定研究I	1	必修	7																									50	1			50	1			100
専門教育科目	日本語教育学特定研究II	1	必修	8																									50	1	50	1					100
専門教育科目	日本語教育課程論	2	選択必修	3					100	1																											100
専門教育科目	日本語教授法研究	2	選択必修	3																							100	1									100
専門教育科目	日本語教育と文法	2	選択必修	4					100	1																											100
専門教育科目	日本語の音声と発音	2	選択必修	4																			100	1													100
専門教育科目	第二言語学習の心理	2	選択必修	4	100	1																															100
専門教育科目	日本語の構造	2	選択必修	2			100	1																													100
専門教育科目	日本語の文法	2	選択必修	3			100	1																													100
専門教育科目	言語学の理論と方法	2	選択必修	2			100	1																													100
専門教育科目	社会言語学	2	選択必修	4			100	1																													100
専門教育科目	日本語の習得と指導	2	選択必修	4					100	1																											100
専門教育科目	言語心理学	2	選択必修	5	100	1																															100
専門教育科目	日本語の表現と論理	2	選択必修	3											100	1																					100
専門教育科目	日本文学と文化	2	選択必修	4			100	1																													100
専門教育科目	日本語の語彙と意味	2	選択必修	3			100	1																													100
専門教育科目	比較日本文化学	2	選択必修	3			100	1																													100
専門教育科目	日本文化研究	2	選択必修	4			100	1																													100
専門教育科目	異文化接触と文化学習	2	選択必修	3			100	1																													100
専門教育科目	学校日本語教育	2	選択	4													100	1																			100
専門教育科目	日本語文字・表記研究	2	選択	4			100	1																													100
専門教育科目	日本語技能指導論	2	選択	5																					100	1											100
専門教育科目	日本語文法演習	2	選択	5																															100	1	100
専門教育科目	言語の比較と対照研究	2	選択	5											100	1																					100
専門教育科目	対照言語学演習	2	選択	6																															100	1	100
専門教育科目	語用論	2	選択	5									100	1																							100
専門教育科目	第二言語習得論演習	2	選択	6																									100	1							100
専門教育科目	日本語位相論	2	選択	5											100	1																					100
専門教育科目	表現法演習	2	選択	6																															100	1	100
専門教育科目	日本語語彙論・意味論演習	2	選択	4																															100	1	100
専門教育科目	近代日本文学史	2	選択	6															100	1																	100
専門教育科目	社会文化学	2	選択	5											100	1																					100
専門教育科目	多文化間教育論	2	選択	5											100	1																					100
専門教育科目	日本の近現代文学	2	選択	5															100	1																	100
専門教育科目	比較文化学演習	2	選択	6																											100	1					100
専門教育科目	異文化間教育学演習	2	選択	6																											100	1					100
専門教育科目	日本語教育海外実習研究	2	選択	6																					100	1											100
専門教育科目	日本語教育実習研究	2	選択	7																					100	1											100
専門教育科目	卒業論文	6	必修	集中																													50	1	50	1	100

別紙4

日本語教育プログラムカリキュラムマップ

学習の成果		1年		2年		3年		4年	
評価項目		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
知識・理解	(1)日本語教育の理論と方法に関する基礎的な知識を得る。	外国語科目(◎○)	外国語科目(◎○)	外国語科目(○)	外国語科目(○)	言語心理学(○)		日本語教育学特定研究Ⅰ(◎)	日本語教育学特定研究Ⅱ(◎)
			言語学の理論と方法(○)		第二言語学習の心理(○)				
	(2)日本語・日本文化の教育に関する基本的な理解を得る。	外国語科目(◎○)	外国語科目(◎○)	外国語科目(○)	外国語科目(○)				日本語教育学特定研究Ⅱ(◎)
		領域科目(◎○)	領域科目(◎○)	領域科目(○)	領域科目(○)				
		平和科目(○)	平和科目(○)	日本語の文法(○)	社会言語学(○)				
			日本語の構造(○)	日本語の語彙と意味(○)	日本文学と文化(○)				
				比較日本文化学(○)	日本文化研究(○)				
				異文化接触と文化学習(○)	日本語文字・表記研究(△)				
	(3)日本語教育の現状と課題に関する基本的な理解を得る。			日本語教育課程論(○)	日本語教育と文法(○)			日本語教育学特定研究Ⅰ(◎)	
					日本語の習得と指導(○)				
	(4)日本語教育6領域に関する基礎的な知識を得る。	領域科目(◎○)	領域科目(◎○)	領域科目(○)	領域科目(○)				
		日本語教育学基礎論(◎)							
能力・技能	(1)日本語教育の理論と方法について，調査・実験・資料分析を通じて，理解を深める。	教養ゼミ(◎)				語用論(△)			
	(2)日本語・日本文化の教育について文献・資料・情報に基づき，個別テーマを設定して研究する。			日本語の表現と論理(○)		言語の比較と対照研究(△)			
						日本語位相論(△)			
						社会文化学(△)			
						多文化間教育論(△)			
	(3)日本語教育の現状と課題について文献・資料・情報を収集・整理し，問題を明確化する。	教養ゼミ(◎)			学校日本語教育(○)				
	(4)日本語教育6領域に関して個別的・専門的に研究する。	領域科目(◎○)	領域科目(◎○)	領域科目(○)	領域科目(○)	日本の近現代文学(△)	近代日本文学史(△)		
	(1)日本語教育の実践に向けて，その方法を構想・立案する。	情報科目(○)							

学習の成果		1年		2年		3年		4年	
評価項目		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
実践的な力	(2)日本語教育の実践に向けて，その内容を分析・開発する。				日本語の音声と発音（〇）				
	(3)日本語教育の実践に向けて，指導案を構想する。					日本語技能指導論（△）			
	(4)日本語教育の実践に向けて，新たな研究を計画し，推進する。			日本語教授法研究（〇）					
総合的な力	(1)個人，あるいはグループで研究・活動を立案し，効果的に実現する。	教養ゼミ（◎） 大学教育入門（◎）					第二言語習得論演習（△）		
	(2)個々の研究や教育実践の成果をレポートや論文にまとめ，プレゼンテーションをする。	教養ゼミ（◎） 大学教育入門（◎）					比較文化学演習△ 異文化間教育学演習△		
	(3)コンピュータなどITを用いて，基礎的な情報処理や教材開発をする。	情報科目（〇）					日本語教育 海外実習研究（△）	卒業論文（◎） 日本語教育実習研究（△）	卒業論文（◎）
	(4)日本語教育6領域の各領域を相互に関連づけ，日本語教育の諸問題を改善・創造する。	教養ゼミ（◎） 大学教育入門（◎）			日本語語彙論・ 意味論演習（△）	日本語文法演習（△）	対照言語学演習（△） 表現法演習（△）	卒業論文（◎）	卒業論文（◎）

（例）教養科目　専門基礎　専門科目　卒業論文　（◎）必修科目　（〇）選択必修科目　（△）選択科目

※ターム科目の区別は，科目名の前に記載する。
第1ターム：1T　第2ターム：2T　第3ターム：3T　第4ターム：4T
（例）第1ターム開講の科目　→　（1T）コミュニケーション1

別紙５

日 本 語 教 育 プ ロ グ ラ ム 担 当 教 員 リ ス ト

教員名	職名	内線番号	研究室	メールアドレス
白川　博之	教授	6868	教育学部棟 A105	hshirak@
仁科　陽江	教授	6873	教育学部棟 A311	ynishina@
西原　大輔	教授	6877	教育学部棟 A310	west@
畑佐　由紀子	教授	6867	教育学部棟 A108	yhatasa@
松見　法男	教授	6871	教育学部棟 A106	nmatsu@
柳澤　浩哉	教授	6869	教育学部棟 A308	yanagisa@
中山　亜紀子	准教授	未定	未定	未定
永田　良太	准教授	6866	教育学部棟 A107	ryota@
西村　大志	准教授	6874	教育学部棟 A205	hnishi@
渡部　倫子	准教授	6865	教育学部棟 A309	tomokow@
金　愛蘭	准教授	6870	教育学部棟 A203	kimeran@

※E-mail アドレスは「@」のあとに、「hiroshima-u.ac.jp」を付けて送信してください。

※「０８２－４２４－（内線番号４桁)」とすれば，直通電話となります。

（霞：０８２－２５７－（内線番号４桁））

（東千田：０８２－５４２－（内線番号４桁））